

「マレーシアの多民族多文化共生社会に学ぶ」

コース・専攻：国際交流・協力コース

グループ名：Team マレーシア

メンバー：芦野百合子、大北豊、大中雅夫、越智勇人、平木秀男

テーマ選定理由

マレーシアは、多民族多文化共生国家として成功していることでよく知られている。今後日本の人口は確実に減少すると予測されており、外国人を受入れることで多民族・多文化が進むと考えられる。そこでマレーシアに注目し、研究テーマを「マレーシアの多民族多文化共生社会に学ぶ」とすることに決定した。

研究のプロセス

マレーシアの多民族多文化共生社会に関係する歴史、教育、宗教並びに外国人との共生について事前学習した。平行して情報を入手するためマレーシアに関連した JICA、マレーシア学生協会、知人や企業を探索し面談を申し入れた。

国内および現地フィールドワーク

国内フィールドワークでは、日本留学生や留学経験のあるマレーシア人、JICA 海外隊経験者の 9 名の皆さんと面談した。

現地フィールドワークでは 9 月 10 日～16 日マレーシアを訪問した。JICA 海外協力隊から派遣されているマレーシア日本国際工科学院、日系企業、日本人コンサルタント会社の 9 名の皆さんとインタビューを実施、現地での情報をヒアリングした。またマラッカを訪問し、マレーシアの歴史、文化、宗教、食事等学習することが出来た。

まとめと提言

マレーシアは過半数のマレー人と多数の小民族が排除しあうことなく平穏に暮らしていると予想し、テーマを決定しましたが、実態はブミプトラ政策によりマレー人を優遇しマレー人主導の国家で、他民族とは距離をとっており、共生よりは共存社会であることが分かりました。日本は単民族社会ですが、少数多民族を受入れる際には、彼らを同化させだけでなく、お互いの人権を尊重し、理解する共存社会を目指すべきだと考えます。マレーシアでは民族間の意思疎通手段として英語を重視しており、就学時から多言語教育を実施しています。日本も異民族異文化の人たちと英語で日常会話が出来るレベルの語学教育を実施することを提案します。

